

2021年 3月15日(月)

防災・危機管理人材養成シンポジウム

第7期災害医療コース修了生成果発表

要介護認定者の災害時避難支援体制

～ケアマネジャーによる災害時避難支援計画及び

緊急時・災害時支援カード作成の試み～

香川大学

香西 ひろみ

1. はじめに -テーマ選定の背景-

日々、訪問看護師として高松市内の要介護認定者宅へ
看護ケアサービス提供のために訪問をしていた

～ある日、利用者の一人に問いかけました～

Q.災害の時、どうやって逃げるん？

A.もう長生きしたからここで死んでもええんや

誰が助けてくれるんな！
だれっっちゃ助けてくれんで・・・

2. 要介護認定者の課題

高松市の65歳以上の要介護認定者

CM: ケアマネジャー

- 5割以上の家庭が独居または高齢者世帯
 - * 2世帯住宅でも日中独居の現状もあり
- 何らかの介護を受けている方が8割以上で、**介護サービス**を利用している(通所及び居宅)
- 避難時には介助者が必要
- 地域コミュニティとの関係性が希薄
- **避難は困難と諦めている⇒自助課題**
- キーパーソンは、CM⇒災害時避難支援者リーダー

3. 課題解決取組みの方法

【対象】 1)A居宅介護事業所のケアマネジャー 3名

2)避難個別支援計画作成(長期目標切れの方対象) 7名 CM:ケアマネジャー

		取組む項目	取組み方法
①	共助	CM:災害時避難行動支援の実際と災害避難に対する意識調査	a)アンケート調査 b)同意書記入:取組みへの同意を得る
②	共助	CM 1)高齢者災害時避難の過去の事例説明 2)高松市の高齢者の概況について説明	
③	共助	CM 1)兵庫県:避難行動要支援者のための避難個別支援計画作成について説明 2)兵庫県災害時要援護者支援指針について説明 3)高松市:災害時要配慮者支援制度、登録率について説明	a)兵庫県:マイプラン、ファミリープラン、エリアプラン、ケアプラン記入例の提供 b)高松市:避難行動要支援者名簿登録適応者の選定依頼
④	自助 共助	サービス担当者会議開催	a)避難個別支援計画追加されたケアプランの説明 b)ケアプラン担当者宅の災害リスクの確認:ハザードマップの提示 c)ケアプラン担当者の災害準備計画立案 d)介護サービス提供者の役割分担、役割確認

緊急時・災害時支援カード作成

【設置対象場所】 要介護認定者宅、居宅介護事業所、介護サービス提供事業所

表

裏

緊急時・災害時支援カード(基本情報)												
ふりがな				性別	男・女	生年月日	T・S・H・R	年	月	日	年齢	
氏名				性別	男・女	生年月日	T・S・H・R	年	月	日	年齢	
住所				連絡先								
家族情報 同居家族	氏名		続柄		☐ 同居	住所			連絡先			
	氏名		続柄		☐ 同居	住所			連絡先			
	氏名		続柄		☐ 同居	住所			連絡先			

緊急時・災害時支援カード(医療情報)					
利用中の 医療機関		主治医		連絡先	
		主治医		連絡先	
		主治医		連絡先	
		主治医		連絡先	
既往症				アレルギー ☐ 無 ☐ 有 【有の場合のアレルギー情報】	

災害時避難行動支援のみならず避難所でも活用できる情報記載とした

要支援 情報	障害者手帳	☐ 無 ☐ 有	留意事項										
	日常生活自立度 *判定基準表参照	寝たきり度	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2		
避難 場所	自宅からの避難時	名称						備考					
		住所						備考					
	その他:	名称						備考					
		住所						備考					
家族等 緊急 連絡先	1	氏名						続柄					
		連絡先						住所					
	2	氏名						続柄					
		連絡先						住所					
避難行動要支援者名簿登録		☐ 無 ☐ 有 有の場合の支援者情報:											
家族の 安否確認	集合場所												
	連絡方法												
利用中の 福祉サ ービス	居宅事業所	事業所名:						担当者:					
		事業所名:						担当者:					
		事業所名:						担当者:					
		事業所名:						担当者:					
特記事項													
カード作成日: 令和 2 年 月 日 作成者:													

医療的ケアの実施状況													
☐ 酸素管理 L/分 カニューレ・マスク 終日投与・夜間のみ													
☐吸引(気管内・口・鼻腔) 頻度: ☐吸入 頻度:													
☐膀胱留置カテーテル Fr ☐洗腸: 回/週 ☐換便:													
☐注射: 点滴:													
☐インスリン注射:													
☐経管栄養(経鼻・胃ろう) 回/日													
注入食種類と注入頻度:朝: 昼: 夕: ☐人工肛門加置 使用材料: 交換頻度:													
☐人工膀胱加置 使用材料: 交換頻度: 業者名: 連絡先:													
☐人工呼吸器管理 透析液: 交換時間: 業者名: 連絡先:													
☐人工呼吸器管理 業者名: 連絡先:													
その他													
カードの情報を、災害時及び緊急時に活用することに同意します。													
本人氏名: 代理人氏名: 続柄:													
代理人氏名欄は、代理人が記載された場合のみ記載してください。													

5. 結果

要介護認定者に対して、生活全般も含めた災害時避難支援体制が構築できた。

●ケアマネジャーによる避難個別支援計画の作成

- ・要介護認定者⇒個々にあった災害準備の目標がたてられ、達成の有無が評価できるしくみができた。
- ・介護サービス提供者⇒災害がサービス提供時に発生した時の対応が明らかになった。
- ・介護サービス提供者⇒改めて事業所内での災害対応について考えるきっかけができた。

●緊急時・災害時支援カードの作成、活用の実施

- ・要介護認定者⇒居住地の災害リスク、(自宅・通所サービス利用時)災害時避難場所、避難経路の確認ができ介護サービス提供者にも情報共有できた。
- ・要介護認定者⇒避難～避難所での必要な情報が集約できた。
- ・要介護認定者、介護サービス提供者⇒災害避難に必要な情報が直ぐに確認できるようになった。

6. 考察

① 今回、ケアプランへの災害時避難支援計画を追加したことで災害時の対応という行動が生活行動の一部として目標設定され、実現可能な具体的な行動計画まで考えることができた。

②緊急時・災害時支援カードの作成・活用の取組みは、要介護認定者を取りまく関係者間で情報共有ができ、担当者会議を通して具体的な避難行動まで想定できた。また、関係者個々の防災意識の向上が図れたことも担当者会議などを通して感じられた。

③ケアマネジャーは、災害の専門的な研修を受講していないため、今後、ケアマネジャーによる避難個別支援計画作成時のアセスメント力を高めるためには専門的な研修の実施が必要である。また、今までのケアプランに追加される計画を立案する為、業務量の増加がある。これに対しては、計画作成報酬の支払いも必要。

④今後、ケアプランに自助力強化のためのプラン追加の検討が必要。

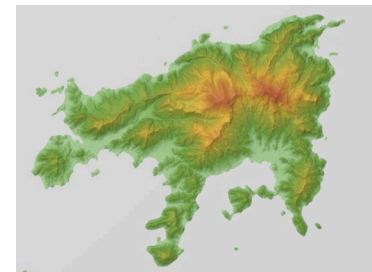
例)訪問リハビリやデイサービス等で避難行動を考えた具体的な歩行力強化の目標をたてる等(避難所までの歩行が可能)

7.おわりに

今回の取組みから要介護認定者の介護サービス利用時のサービス提供者による災害時避難支援体制が明らかになり、取組む過程で要介護者認定者の自助力、要介護者認定者を取り巻く人々の共助力を高める事ができた。

高齢者の日常の生活行動に少し工夫を加えることによって、災害時対応にも繋がる改善方法が得られた。高齢化社会において災害対応は災害時だけに使う対策を考えるよりも、日常から使えることを工夫・利用して災害対応に繋げる考え方が有用だと考える。今後も訪問看護師としてこの取組みを継続していきたい。

南海トラフ地震における 小豆島中央病院のスタッフの意識調査



～小豆島の現状における課題～

香川大学 川田 憲伸

背景

病院の規模、勤務体制、時間内、時間外による人員の差

目的と方法

災害（南海トラフ地震）に対する調査をすることにより震災意識調査及び問題の把握すること。

当院に勤務している職員を対象にアンケート調査

期間 令和2年8月1日～9月30日 2回

対象 小豆島中央病院 技術職 36名

診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、薬剤師など
基礎情報、防災意識、召集時の対応、災害の知識等30設問程度

南海トラフ巨大地震に対するアンケート

皆様、お疲れ様です。今回、小豆島における南海トラフ巨大地震についてアンケートを行い、問題点を洗い出しますので、ご協力（2週間1回目）をお願いします。
アンケート結果は香川大学「行政・企業・地域研究」のデジタル実践研究にて報告します。
なお、締め切りは8月28日（金）となりますので、重ねてよろしくお願いいたします。

1. 基礎情報について

年齢（ ）
性別（ ）
役職（ ）
職種（ ）
住所（ ）
所属（ ）
所属地域まで結構です。例 小豆島町安田
勤務先までの移動手段（ ） 移動にかかる時間（ ）分

2. 防災意識について

地震に対して不安がある。 はい いいえ
防災グッズを準備している。 はい いいえ
はいの場合 どの程度 水（ ）日分 食料（ ）日分
その他の準備（ ） はい いいえ
地震が起こった場合の行動イメージできていますか はい いいえ
（ ）
近隣のハザードマップを把握しているか。 はい いいえ
避難所の場所を把握しているか。 はい いいえ
自宅の形態 《持ち家 賃貸（アパート、家）》
自宅の耐震構造 はい いいえ
築年（ ） 年もしくは建築年（ ）年

3. 避難時の対応

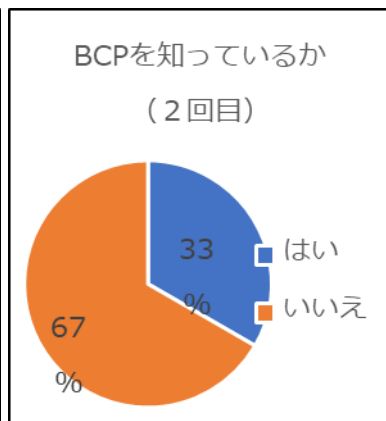
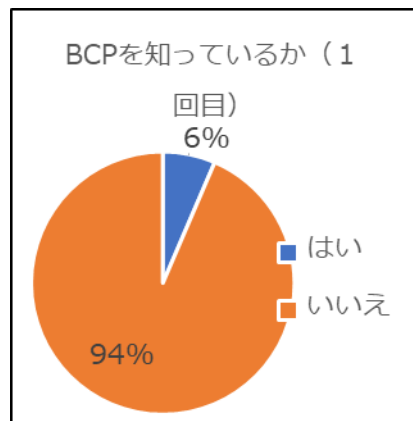
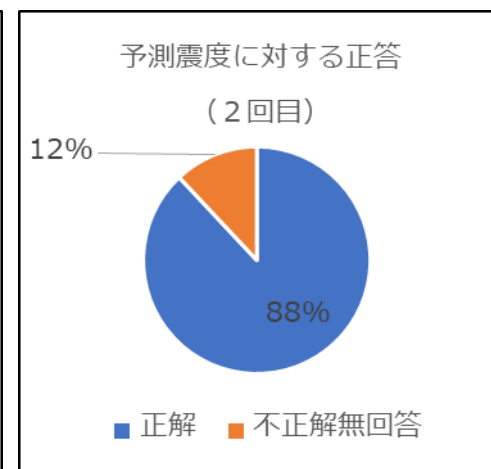
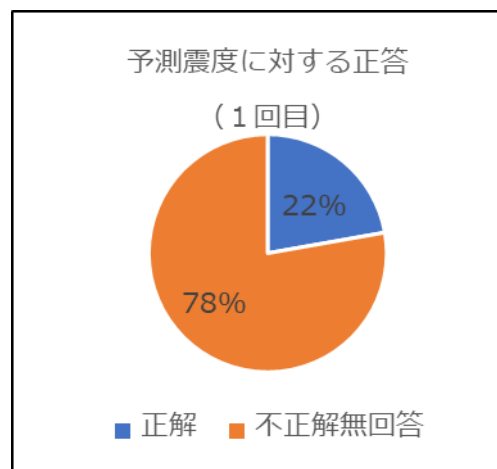
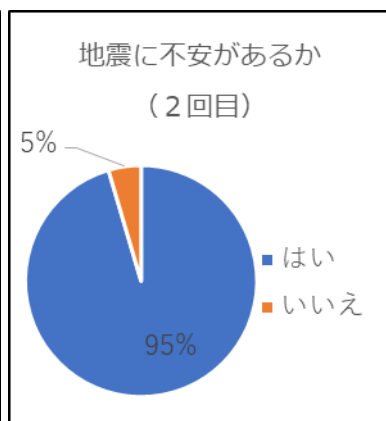
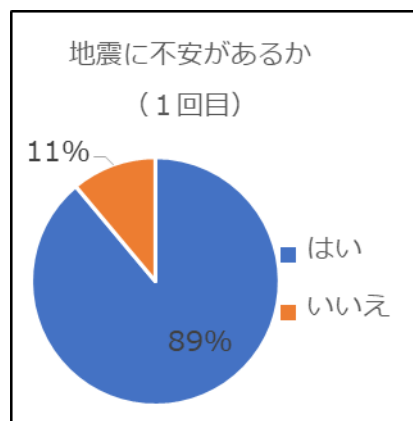
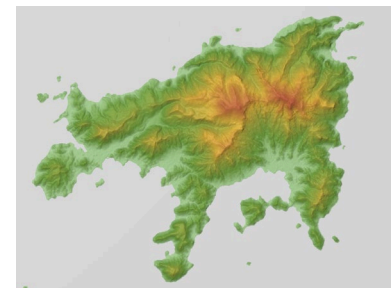
災害初期マニュアルの確認 はい いいえ
アクションカードを確認 はい いいえ
普段からの準備（地震） はい いいえ
状況による対応の違いを認識しているか。 はい いいえ
震災時、勤務時間内にて最初に行うこと。
（ ）

結果

平均年齢 35.71歳

男女比 6:4

回収率 1回目36/36 100% 講習会 2回目 25/36 69%



- 地震に対する不安に増加した。
(89%→95%)
- BCPの認識が改善した。
(6%→33%)
- 南海トラフ地震に対する認識が向上した。(22%→88%)

災害拠点病院新入職員の災害医療に対する意識調査 香川大学 笹岡 昇

【はじめに】

さぬき市民病院(以下当院)は地域災害拠点病院に指定されている。当院職員が、災害拠点病院で働いていることの意味、災害時の自分たちの役割が何か、その責務などを十分理解しているかどうかについては内心じくじたる思いを抱くことがある。また、当院での災害医療活動の中核となりうるDMAT(災害派遣医療チーム)メンバーに新たになろうと希望する職員が現状では少ないことが今後の有事の際の懸念材料である。

そこで、令和2年度新入職員に対して**災害拠点病院で働くことの意義を理解してもらい**、ひいては**将来的にDMATメンバーを希望してもらいたく**early exposure(早期体験実習)の応用として災害医療に関する講演を行った。そして、その講演に対するアンケートをもとに問題解決につなげる戦略を検討した。

【対象と方法】

対象は令和2年度**新入職員16名**で、その内訳は、医師:1名、看護職員:11名、医療技術職員:3名、一般事務職員:1名であった。方法は、災害医療に関する講演を行い、講演終了後に**集合調査方式としてアンケート**用紙を配布し回答してもらった。その結果に関して集計・解析を行った。

クロスSWOT分析

【結果と考察】

新入職員の災害医療に関する講演前の認知度と講演後の理解度は、入職前から各種専門学校などで災害医療に対する知識を得ていたためともに良好な結果であった。

講演終了後のアンケート結果をもとにSWOT分析・クロスSWOT分析を行った。災害医療に対して関心を持ち、災害拠点病院の職員であることの矜持を維持してもらい、できればDMATのメンバーとして活躍してもらおうという目標を設定して問題解決につなげる戦略を考察した。

その戦略を人間の行動変容に関連させてどのように進めていくか。また、今後の人材育成に対してティーチングやコーチングの手法を駆使しながら対応していかななくてはならないことを確認した。さらに、次年度以降も今回行った講演を新入職員に対して行うことでより早期から災害医療に関心を持ってもらえるようアピールし、アンケートを行い、解析することで新たな戦略につなげられるようブラッシュアップしていかなければならない。

【まとめ】

令和2年度新入職員に対して災害医療関連の講演を行い、アンケート結果をもとに意識調査を行った。

アンケートを解析してSWOT分析・クロスSWOT分析を行い人間の行動変容に基づいて目標達成戦略を考察した。

目標: 災害医療に対して関心を持ち、災害拠点病院の職員であることの矜持を維持してもらい、できればDMATとして活躍してもらおう。	Strength(強み) 意欲・意識の高さ 責任感 向上心 若さ	Weakness(弱み) 不安感 無関心 知識不足、経験不足
Opportunity(機会) DMATメンバーの存在 講演、研修、訓練が受けられる災害拠点病院	積極戦略(SxO) - 積極的に院外研修を勧める。 - DMAT定例会にオブザーバーとして参加する。 - DMAT養成研修を受けてもらう。	改善戦略(WxO) - 定期的な院内研修を行い啓蒙する。 - 不安・疑問などの相談に乗る。
Threat(脅威) 今後の専門性 今後の家庭環境 早期離職 災害の少ない地域性	差別化戦略(SxT) - DMATは専門的資格であることを認識する。 - 家族を災害から守ることができる。 - 災害に関する知識や資格は就職時のアピールポイントとなる。	防御/撤退戦略(WxT) - そっと見守る。 - 大切な同僚として接していく。

人間の行動変容

